

専門領域推進部 難病理学療法領域 活動報告書

日時：平成 30 年 7 月 11 日（水）19：00～21：00

会場：山形ロイヤル病院

内容：勉強会

①講義「パーキンソン病患者に対する評価と運動の再考」

講師：真壁寿 先生（山形県立保健医療大学 理学療法学科 教授）

②意見交換会

参加人数：14 名

スタッフ：石川慎一郎（国立病院機構山形病院） 落合悦子（山形ロイヤル病院）

佐太木淳一（鶴岡市立荘内病院）

<勉強会内容>

今回の勉強会は、前半に講義、後半に意見交換会というスタイルで行った。

前半の講義では、真壁先生よりパーキンソン病の理学療法について概論から評価・治療までを近年の研究（文献）なども織り交ぜながら話していただいた。パーキンソン病の治療を行う上で大事な要素としては、①呼吸・循環器系（心肺機能）、②柔軟性、③筋力、④バランスが挙げられ、講義の中で繰り返し述べられていた。これら4つの要素全てに介入していく必要があるとのことであったが、臨床の限られた時間の中でそれら4つの要素をマンツーマンで治療していくことは難しく、患者自身の協力（セルフトレーニング）も必要であるということであった。また近年、内部疾患系の運動療法においては中等度の運動強度が推奨されているが、パーキンソン病の運動療法においては 80～85%HRmax の運動負荷、つまり高強度の運動強度が推奨されるということであった。

後半の意見交換会は、2グループに分かれ少人数で話しやすい環境の中で行った。部員が司会を務め、講義についての内容やパーキンソン病に限らず難病患者との関わりで普段困っていることなどを話し合った。

今回の勉強会は少人数故に講師と受講者の距離も近く、気軽に質問・話し合いを行うことができ、勉強会ならではの利点を感じた。今回の勉強会を参考に、また11月に予定している第2回勉強会開催に向け準備していきたいと思う。

